



あけまして おめでとうございます

なんと、今年も大会年！！終わらない！！！！

終わりのない問いを、また今年もみなさんといっしょに考え続けていけたらと思っています。

今年も引き続き、よろしくお願いいたします。

★鎌田先生のお話から…

先日の大会のあと、校長室で鎌田先生からお話いただいたことをざっくりまとめてみました。

○地域教材の大切さ 魅力的な大人との出会い

→これがあることで、子どもたちは、教材に身を寄せることができる。

生のインタビューや体験活動から学習問題づくりをするとおもしろい。

6年生の歴史では、地域教材だと難しいところもあるが、部分的に取り入れることも可能。

○一次教材と二次教材

一次教材は、教師は用意したもの

二次教材は、子ども自身が調べてきたもの 自分でもってきたもの

二次教材を使いながら学びをすすめていくと、意識がつながっていく。

「続けて問題を考える」姿勢が、二次教材につながる。

4年生後半くらいから、資料の見方はきちんとおさえておくことが必要。高学年から資料が複雑になったり、つなげて考えることが必要になったりするため。

○タブレットやICTの使い方

主として鉛筆やノートで構わない。個によって、単元によって使い分けることが大切。

自己決定の権利が子どもにあるとよい。

○見取りを研究にどう取り入れていくか。

指導計画を繰り返し修正しているところ → 振り返りの活用により、計画をかえている。

これは見取りをいかした証拠である。

ノートの振り返りにたくさん赤でコメントをしている。これも意識をつなぐ工夫のひとつ。

ノートを製本してあげるとよい。

当日の指導案になっても構わない。これは、単元を進めるなかで、子どもにあったものを…となった証拠。

○単元の見通し

一年間の単元の見通しをもっているかどうか。これを教師がもっていると、子どもも教師も、意識が年間でつながる。学年をこえてつながる。きっとしているはずなので、来年度の研究発表でいれられるとよい。

校長室でも、授業について、大会について褒めていただきました。先生方のおかげです。引き続き研究を深めていきましょう！



12.25の大村先生のご講演もとてもよかったので紹介したかったのですが、紙面に限りがあるので、次号に載せます…。